

昭和45年度 和歌山県文化功労賞

ます ぎき そと ひこ
升 崎 外 彦

住 所：和歌山県日高郡南部町

出 身 地：石川県金沢市

生 年：明治25年

◎業績及び経歴

大正4年東京聖書神学校を卒業後、島根県で、伝道に励むと共に相愛高等女学校を創設して教育の普及向上に努め、その後大正13年より3年間同志社大学神学部において厚生事業を専攻するかたわら高知市においても伝道に従事、大正15年以降は賀川豊彦氏の社会福祉事業と伝道事業に協力して人心の浄化と社会福祉に貢献した。

さらに昭和3年日高郡南部町に居を移して四十有余年、人心の浄化と教育文化の普及こそが、豊かな人間形成の糧であり人々の平和と社会繁栄の根本であるとの終始一貫した強い信念のもとに、自ら地域社会に融け入って教化に努め、率先して福祉厚生活動を実践され、わらじばきの伝道者として人々の尊敬と信頼の的になっている。

当初同地に教会を開設すると、直ちに愛の園保育園を併設して、恵まれない多くの幼児の保育にあたりとともに、昭和5年には、社会教育、文化施設に恵まれ難い実情を憂慮されて、文化センターとしての紀南労働学園を設立。各地から知名士を招いて文化講座を開設し、進んで青少年の修養の道場としてこれを解放した。また、考古史料、民俗資料の蒐集保存とその展示も行ない、教育文化の向上に献身されている功績は極めて大きく、島根県知事、和歌山県知事(2回)、厚生大臣よりそれぞれ表彰され、恩賜金を賜わった。

その清貧に甘んじ苦境にあっても常に清らかな心を求めて屈することなく、迷える人々の救済を続けられていることは、国内はもとより海外の人々からも稀にみる救世主として敬慕されている。